令和８年度（令和７年度分）

教育に関する事務の管理及び執行の状況
点検・評価結果報告書

令和８年８月

玖珠町教育委員会

目　次

１　点検・評価の概要　・・・・・・Ｐ １

２　令和７年度玖珠町教育委員会の重点方針　・・・・・・Ｐ ３

３　点検・評価調書の説明　・・・・・・Ｐ１１

４　点検・評価一覧　・・・・・・Ｐ１３

５　事務管理の執行状況点検・評価基準　・・・・・・Ｐ１４

６　事務管理の執行状況点検・評価調書　・・・・・・Ｐ１５

１．点検評価制度の概要

（１）経緯

平成１８年１２月に教育基本法が全部改正され、これに続き地方教育行政の組織及び運営に関する法律も、平成１９年６月にその一部が改正され、平成２０年４月から施行されました。

この法律の改正により、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その報告書を議会へ提出し公表することが義務付けられました。

（２）目的

事務の点検・評価は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第２６条の規定に基づき、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況を点検・評価することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たすことを目的としています。

（３）評価等の対象

評価等の対象は、毎年度策定している玖珠町教育行政の重点方針であり、各方針の具体的取組に目標指標を設け、達成率から総合的に令和７年度分の事務の管理及び執行状況について点検・評価したものです。

（４）評価の方法について

重点方針の具体的な取組に目標指標を設け、客観的に事業の達成度が分かるようにしています。複数の具体的な取組の達成度を総合的に判断し、教育委員会の「自己評価」及び事務・点検評価委員会が行う「総合評価」で評価を行っています。

（５）学識経験者の知見の活用

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第２６条第２項の規定による有識者の知見の活用については、玖珠町教育委員会事務・点検評価委員会として３名の委員が専任されています。

〇委　員

委員長　秦　　亜　紀　氏

森　　初　美　氏

濱　邊　裕　子　氏

＜参考＞

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第２６条　教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第１項に規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第４項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

２　教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

令和７年度玖珠町教育行政の重点方針

令和７年４月

玖珠町教育委員会

令和7年度玖珠町教育行政の重点方針

教育行政の基調

『時代の変化に対応し、未来を見据えた人材育成』

～ 少子･人口減少社会において地方創生を視野に入れた地域の活力を生み出す教育施策 ～

玖珠町の教育行政は、少子化に伴う児童生徒数の減少、地域社会のグローバル化、核家族化、価値観の多様化といった社会の変化に加え、ＳＮＳの普及など、高度情報化社会の影響を受けています。特に、ＧＩＧＡスクール構想による一人一台端末の活用やオンライン授業、デジタル教材の普及は、子どもたちの学習環境を大きく変えています。

全国的に学校に行きづらさを感じる児童生徒が増加しており、本町も、例外ではありません。これらの状況を改善するため、令和６年４月に開校した「くす若草小中学校（学びの多様化学校)」を核とし、誰一人取り残さない教育施策の充実支援に取り組んでいます。

教員の長時間勤務問題に加え少子化が進む中、従来の体制での学校部活動運営が困難になっています。教員の働き方を含めた部活動改革は喫緊の課題です。また、地域や保護者との繋がりの希薄化も懸念されており、教育現場だけでなく家庭教育や地域教育のあり方が問われています。「地域とともにある学校づくり」を目指し、地域と連携した教育活動の実践が重要です。

玖珠町第６次総合計画では「次代を担う子どもとともに　未来をつくるまち」を基本理念に掲げています。子どもたちの「心の豊かさ」や「生きる力」を育む学校教育とともに、住民一人一人が生きがいや思いやりを持った「活力ある共生社会」の実現に向け、主体的に学び続ける生涯学習の視点が重要です。学校教育と社会教育が連携し、実践活動に取り組む必要があります。

玖珠町のまちづくりのテーマである「童話の里づくり」は、久留島武彦の教育精神を継承した『人材育成』が礎となっています。人が生涯にわたって学び、生き生きと暮らすために、教育の果たす役割はきわめて重要です。教育行政、学校、家庭、地域が協働し、未来を見据えた人材育成に繋げていくことを基本とします。

今年度の重点方針

Ⅰ　学校教育

１．就学前教育の質の向上と教育環境の整備
２．特別支援教育の充実
３．知・徳・体のバランスのとれた子どもの育成
４．学校間・校種間のきめ細やかな連携
５．ＩＣＴを活用した教育の推進
６．地域の高校への支援と玖珠志学塾の運営
７．安全・安心な学校給食の提供と地産地消・食育の推進

Ⅱ　社会教育

１．地域教育力の向上
２．子どもと大人　家庭と地域での教育
３．生涯にわたるスポーツ・レクリエーションの推進
４．久留島武彦精神を継承する取組の充実
５．文化の創造と振興
６．地域にある文化財の保存と活用の推進
７．生涯学習を保障する図書館サービス網の充実

Ⅲ　学校教育・社会教育の連携

１．地域とともにある学校づくり（コミュニティ・スクールの推進）
２．中学校部活動の地域展開の推進

Ⅳ　人権教育

１．学校教育における人権教育の充実
２．あらゆる場における人権教育の推進

Ⅰ　学校教育

「自分が好き、学校が好き、玖珠が好き」と言える子どもの育成をめざし、本年度５つの視点に沿った、７つの重点方針による学校教育施策を行います。

○知・徳・体のバランスのとれた子どもの育成
○一人一人のニーズに応じた教育の充実
○家庭・地域に信頼され、協働して子どもを育む学校教育の推進
○学校間・校種間のきめ細やかな連携
○安全・安心な教育環境の確保

１．就学前教育の質の向上と教育環境の整備

「玖珠町幼児教育振興プログラム」に基づき、就学前教育の質の向上と充実、地域の実態をふまえた教育環境の整備に努めます。また「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を幼児教育施設と小学校で共有し、円滑な接続を図ります。

①就学前教育と義務教育の虹いろの架け橋協議会の実施
②玖珠町架け橋期カリキュラムの実施・検証
③就学前教育にかかる研修及び就学児童を対象とした取組の充実
④関係機関との情報共有と就学前児童及び保護者への相談支援

２．特別支援教育の充実

支援を要する児童生徒の能力や可能性を最大限に伸ばし、社会的自立に必要な力を養うため、就学前から関係団体との連携を図ります。

①就学支援委員会の開催と活用
②特別支援教育支援員の活用

３．知・徳・体のバランスのとれた子どもの育成

「玖珠町第６次総合計画」に基づき、確かな学力の定着・向上、豊かな人間性の育成及び心身の健康と体力の向上を図ります。

①各種調査結果を基にした、個別最適化された指導の推進
②いじめ、不登校及び教育相談に関する取組の充実
③日常的な体力づくりの充実

４．学校間・校種間のきめ細やかな連携

小学校とくす星翔中学校が連携し、中１ギャップ解消をはじめスムーズな中学校生活が送れるように取り組みます。

また、くす若草小中学校（学びの多様化学校）との連携が円滑に進められるよう取り組みます。

①校種間連携学習会、研修会等の実施

５．ＩＣＴを活用した教育の推進

文部科学省の推進するＧＩＧＡスクール構想において示されている「一人一人の能力や個性に応じて個別最適化された学び」の実現に向けて、教職員の研修及び学習環境の整備充実に取り組みます。

①ＩＣＴを活用した授業の充実
②児童生徒の情報活用能力の向上
③家庭学習での通信端末の活用

６．地域の高校への支援と玖珠志学塾の運営

地域唯一の高校である県立玖珠美山高校の存続に向けた支援を行うとともに、同校生徒の進路達成に向けた支援に取り組みます。

①公営塾と学校との連携による進路の充実
②郡外から就学する生徒への下宿助成

７．安全・安心な学校給食の提供と地産地消・食育の推進

玖珠町で採れる新鮮で安全・安心な米や野菜などの食材を積極的に活用しながら、地域の農と食文化の素晴らしさを知り、郷土愛を育む取組を進めます。また、食育授業やアレルギー対応食に取り組むとともに、衛生管理を補強し、安全・安心で美味しい給食の提供に努めます。

①食育授業や郷土愛を育む地産地消の推進
②アレルギー対応食の実施

Ⅱ　社会教育

社会教育基本計画（令和３年度から令和７年度まで）の３つの基本目標による７つの重点方針により、本年度の社会教育施策を実施します。

【社会教育基本計画　基本目標】

○人づくり　生きがいを育む社会教育の推進

○体づくり　心と体の調和を図る社会体育の充実

○心づくり　郷土の文化・歴史の学習、芸術創造力の育成

１．地域教育力の向上

地域づくりの中核となる大人自身が、地域の課題を認識し、生涯学習に対する意識を高めることで、地域づくりに参画・協働する意義を醸成して行きます。

主催講座や町内外で行われる各種講座に対して参加要請や情報提供を行い、教育力を高めて行きます。

また、子どもたちと共に学び世代間の繋がりを持つことで、子どもたちが大人になってからも地域を発展させる力となる取組を行います。

①主催講座の開催

②学校との連携・協働による「地域協育力」向上事業

③世代に応じた各種学習活動の支援

２．子どもと大人　家庭と地域での教育

家庭や地域での学びは、人間形成の基礎を養う大切な役割を担っています。学習機会の充実を図ることにより各家庭の教育力の向上に繋げるとともに、子どもたちには、地域での交流や体験を通じた活動で、学び・考え・行動するといった人格を養う環境づくりをしなければなりません。

①青少年健全育成協議会への支援

②家庭教育に関する事業の実施

３．生涯にわたるスポーツ・レクリエーションの推進

心身ともに健康で充実した毎日を過ごすためには、生涯にわたってスポーツ・レクリエーションを楽しむことが重要です。

活動団体及び指導者の育成及び競技力向上の支援、体力向上・健康増進に関する情報や学習機会の提供をします。

①スポーツ団体、サークル活動の充実

②住民参加型のスポーツイベントの実施

４．久留島武彦精神を継承する取組の充実

「童話の里」の根幹をなす日本のアンデルセン・久留島武彦の偉業やその精神を後世に伝えるための取組を充実します。

久留島武彦の幅広いネットワークを活かせるような企画を試み、久留島武彦記念館を通した調査・研究の成果を町民と共有することで、半世紀以上の歴史を誇る「童話の里づくり」のさらなる発展を目指すとともに、児童文化の担い手となる団体等への支援・育成を行います。

①日本童話祭の開催
②久留島武彦顕彰全国語りべ大会の開催
③久留島武彦顕彰全国児童生徒俳句大会の開催
④久留島武彦童話賞子ども創作童話コンクールの開催
⑤小中学校をはじめとする久留島学習等の場の提供
⑥久留島武彦記念館による調査・資料収集・研究・企画展示・情報発信
⑦わらべサークル協議会への支援及び児童文化の担い手の育成

５．文化の創造と振興

文化芸術の振興は、「童話の里づくり」にとって重要な取組です。すぐれた文化芸術に触れる機会を充実させ、文化の薫る豊かな町を目指し、親しめる環境づくりを行います。

①巡回音楽会の開催
②文化芸術活動を促進するための公民館フェスティバルの開催
③久留島武彦記念館による企画展の開催
④文化芸術に触れる機会の提供
⑤自主文化芸術活動への支援

６．地域にある文化財の保存と活用の推進

地域にある文化財を活用した郷土教育並びに地域の歴史文化を学ぶ場の提供が必要です。このことから、文化財の保護（保存・活用）と保存整備に取り組み、町内の小中学校への出前授業をはじめ地域づくりにつながる活動を行っていきます。

①文化財保護（保存・活用）の推進
②国指定文化財等の保存整備
③各小中学校の郷土教育の支援

７．生涯学習を保障する図書館サービス網の充実

あらゆる年代に生涯学習を保障するため、既存施設を活用した図書館サービス網を充実させるとともに今後の図書館サービスのあり方について関係各所と連携・協議を深めます。

①わらべの館の図書の充実
②中央公民館図書室の充実と利用者の拡大
③わらべの館児童図書室と中央公民館図書室の連携
④わらべの館移動図書館車の活用

Ⅲ　学校教育・社会教育の連携

１．地域とともにある学校づくり（コミュニティ・スクールの推進）

コミュニティ・スクール（学校運営協議会）を活用し、保護者・地域住民の学校経営への参画を促し、家庭・地域に信頼される「地域とともにある学校づくり」を推進します。

①積極的な情報発信
②地域の「ひと・もの・こと」を活用した教育活動の推進
③地域学校協働活動（協育コーディネーター）との連携

２．中学校部活動の地域展開

少子化の進展に伴い、中学校の部活動を従来通りの体制で運営することが難しくなっています。また、教員が専門外の指導を行うことによる負担感や長時間勤務など、複合的な課題を抱えています。こうした状況から、文部科学省が示した「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革」を進めるため、「学校部活動」から地域団体が主体となって運営する「地域クラブ」へと展開しながら、将来を見据えた持続可能な生涯スポーツ・文化活動への推進を目指します。

①中学校部活動（運動部・文化部）の地域展開

Ⅳ　人権教育

１．学校教育における人権教育の充実

玖珠町人権施策基本計画に伴う実施計画に基づいて、教育活動全体を通して意図的・計画的に人権教育を推進します。また、人権教育推進校の指定による研究成果の共有、人権に係る研修会への積極的な参加等によって、教職員の資質の向上を図り、人権教育の充実を目指します。

①児童生徒への部落差別解消に向けた人権教育の指導及び啓発活動の推進
②部落差別解消に向けた教職員研修の実施

２．あらゆる場における人権教育の推進

「玖珠町人権施策基本計画」を基調に、わが国固有の人権問題である部落差別問題をはじめ、女性や子ども・高齢者・障がい者・外国人・医療など様々な人権課題について正しく理解し、その解決に向けた意欲と実践力を持った町民を育成することが重要です。あらゆる場において、学習機会の提供を人権確立・部落差別解消推進課と連携して進めます。

①玖珠町人権公開講座の開催
②広報くす「あなたの人権・わたしの人権」の掲載
③部落差別の解消の推進に関する法律の目的に沿った事業実施

事務の点検・評価調書説明

令和８年度（令和７年度分）玖珠町教育委員会事務の点検・評価調書

大項目（分野）	1	学校教育	担当所属	学育・幼児教育班
中項目（方針）	1	就学前教育の質の向上と教育環境の整備		

説明：玖珠町教育行政の重点方針の大項目（学校教育、社会教育、人権教育）、大項目下の中項目（令和７年度方針 18 項目：学校教育７、社会教育 7、学社連携２，人権教育２）を記入しています。

1　主要事業（目指すべき方向性）【計画】

主要事業	①教育環境の整備 ②基礎学力の定着と向上
前年度点検・評価で整理した課題	①・・・・・・を改善する ②・・・・・・を重点的に行う。

説明：主要事業は、玖珠町教育行政の重点方針の小項目を記入しています。それに対して、整理した課題等を記入しています。主要事業①＝課題①（※今後丸数字は、すべて主要事業にリンクしています）

2　令和７年度に実施した取組【実行】

主要事業①教育環境の整備
◆ ◆
主要事業：②基礎学力の定着と向上
◆ ◆

説明：主要事業の中で、実施した取組を箇条書きにしています。

3　目標指標の設定　【実行】

目標指標	単位	目標値	目標値の設定根拠（数値の年度、割合等）
①・・・・・	台	1050	・・・・・
②・・・・・	%	100	・・・・・・

説明：４で目標数値の達成度から評価を行うが、目標数値の設定根拠について記入しています。

4　目標指標の達成度【評価】

目標指標		単位	目標値 a	実績値 b	達成率 b/a	達成度	自己評価	総合評価
①・・・・・		台	1050	1050	100	◎	B	C
②・・・・	小	%	100	100.5	100.5	◎		
	中	%	100	95.3	95.3	○		

説明：目標数値に対して、実績値・達成率を記入しています。それにより、達成度を表しています。

【達成度：達成率に対して、「◎」100 以上、「○」99～80、「△」79～60、「×」60 未満】

【評価：A 十分成果が上がっている、B 成果が見える、C 成果がみられるが、更なる取り組みを要する、D 改善を必要とする、E 抜本的見直しが必要】

評価は、達成度の状況を考え、教育委員会の自己評価、事務・点検評価委員の総合評価を記入しています。

5　現状認識及び今後の課題【改善】

主要事業①教育環境の整備
◆ ◆
主要事業：②基礎学力の定着と向上
◆ ◆

説明：改善項目は、事業ごとに記入しています。

令和８年度（令和７年度分）玖珠町教育委員会事務の点検・評価一覧

令和７年度　重点施策			担当	頁	自己評価	総合評価
Ⅰ　学校教育						
	1	就学前教育の質の向上と教育環境の整備	学育・幼児教育班	15	B	B
	2	特別支援教育の充実	学育・幼児教育班	17	B	B
	3	知・徳・体のバランスのとれた子どもの育成	学育・幼児教育班	18	B	B
	4	学校間・校種間のきめ細やかな連携	学育・幼児教育班	20	A	A
	5	ＩＣＴを活用した教育の推進	学育・幼児教育班 総務管理班	21	A	A
	6	地域の高校への支援と玖珠志学塾の運営	総務管理班	22	B	B
	7	安全・安心な学校給食の提供と地産地消・食育の推進	給食センター	23	A	A
Ⅱ　社会教育に関すること						
	1	地域教育力の向上	社会教育班	24	A	A
	2	子どもと大人　家庭と地域での教育	社会教育班	26	C	C
	3	生涯にわたるスポーツ・レクリエーションの推進	社会スポーツ班	27	B	B
	4	久留島武彦精神を継承する取組の充実	社会教育班 わらべの館 久留島武彦記念館	28	A/B	A
	5	文化の創造と振興	社会教育班 久留島武彦記念館	31	A	A
	6	地域にある文化財の保存と活用の推進	社会教育班	33	B	B
	7	生涯学習を保障する図書館サービス網の充実	社会教育班 わらべの館	35	A/B	A
Ⅲ　学校教育・社会教育の連携に関すること						
	1	地域とともにある学校づくり（コミュニティ・スクールの推進）	学育・幼児教育班 社会教育班	37	A	A
	2	中学校部活動の地域展開	学育・幼児教育班 社会スポーツ班	39	B	B
Ⅳ						
	1	学校教育における人権教育の充実	学育・幼児教育班	40	B	A
	2	あらゆる場における人権教育の推進	社会教育班	41	A	A

事務管理の執行状況点検・評価の基準

達成率・達成度について

各方針の具体的取組に目標指標を設け、それに対する実績値から達成率を算定し、達成度としています。

達成度	達成度の目安
◎	達成率１００％以上
○	達成率100％未満80％以上
△	達成率80％未満60％以上
×	達成率60％未満

自己評価・総合評価について

教育委員会評価を「自己評価」、事務評価部会評価を「総合評価」とし、重点方針の主要事業を総合的に評価したものとしています。

評価ランク	目標に対する達成度合い
A	「十分成果が上がっている。」
B	「成果がみえる」
C	「成果がみられるが、更なる取り組みを要する」
D	「改善を必要とする」
E	「抜本的見直しが必要」

令和８年度（令和７年度分）玖珠町教育委員会事務の点検・評価調書

大項目（分野）	Ⅰ	学校教育	担当所属	学育・幼児教育班
中項目（方針）	1	就学前教育の質の向上と教育環境の整備		

事務報告　1423～1425

１．主要事業【計画】

主要事業	① 就学前教育と義務教育の虹いろの架け橋協議会の実施 ② 玖珠町架け橋期カリキュラムの実施・検証 ③ 就学前教育にかかる研修及び就学児童を対象とした取組の充実 ④ 関係機関との情報共有と就学前児童及び保護者への相談支援
前年度整理した課題	① 持続可能な幼小連携の在り方 ② 持続可能な幼小連携の在り方 ③ 研修及び取組み内容の充実 ④ 相談体制や就学相談支援の整備

２．令和７年度に実施した取組【実行】

主要事業：　① 就学前教育と義務教育の虹いろの架け橋協議会の実施
◆ 子どもを真ん中に学びや育ちを語り合い、協働して、架け橋期カリキュラムの充実を図る
主要事業：　② 玖珠町架け橋期カリキュラムの実施・検証
◆ 教育内容の相互理解を図り、架け橋期カリキュラムの見直しを行う
主要事業：　③ 就学前教育にかかる研修及び就学児童を対象とした取組の充実
◆ 就学前教育研修会や交流会等の実施
主要事業：　④ 関係機関との情報共有と就学前児童及び保護者への相談支援
◆ 教育相談会の実施及び関係機関と連携を図り、相談・支援体制の充実に努める

３．目標指数の設定【実行】

目標指数	単位	目標値	目標値の設定根拠（数値の年度、割合等）
① 虹いろの架け橋協議会実施回数	回	2	就学前教育と義務教育の虹いろの架け橋協議会実施回数
② 玖珠町架け橋期カリキュラムの充実度の割合	%	90	アンケート幼小連携に役立てていける「そう思う」「大体そう思う」の割合
③ 幼児教育・保育施設全職員研修会実施回数	回	1	特別支援教育研修会実施回数
③ 就学前教育研修会満足度	%	80	アンケート研修会の内容「とても参考になった」「参考になった」の割合（年3回）
③ ５歳児交流会実施回数	回	2	5歳児交流会実施回数
③ ５歳児給食体験参加園数	園	7	5歳児給食体験参加園数（全7園）
④ 教育相談会の申込者数の割合	%	20	就学対象者（83名）のうち20%の希望者

４．目標指標の達成度【評価】

目標指数	単位	目標値 a	実績値 b	達成率(%) b/a	達成度	自己評価	総合評価
① 虹いろの架け橋協議会実施回数	回	2	2	100	◎	B	B
② 玖珠町架け橋期カリキュラムの充実度の割合	%	90	91.7	101.8	◎		
③ 幼児教育・保育施設全職員研修会実施回数	回	1	1	100	◎		
③ 就学前教育研修会満足度	%	80	83.3	104.1	◎		
③ ５歳児交流会実施回数	回	2	2	100	◎		
③ ５歳児給食体験参加園数	園	7	7	100	◎		
④ 教育相談会の申込者数の割合	%	20	8.3	41.5	△		

５．現状認識及び今後の課題【改善】

主要事業： ① 就学前教育と義務教育の虹いろの架け橋協議会の実施

◆ 協議会の委員には、町内の幼児教育・保育施設の園長、小学校校長、地域、保護者で構成され、子どもを真ん中にして語り合う時間を持つことができた。継続的な連携を確立するために、顔が見える関係作りが必要である。今後委員には小学校の保護者だけでなく、未就学の保護者にも周知していく必要がある。

主要事業： ② 玖珠町架け橋期カリキュラムの実施・検証

◆ お互いの保育・教育を見合い研修を深めていくことで、相互理解につながっている。
各学校が園と開催している交流活動では、日程調整が上手くいかず開催時期が遅れてしまったという反省が出された。持続可能な交流活動となるよう架け橋期カリキュラムを充実させていく必要がある。

主要事業： ③ 就学前教育にかかる研修及び就学児童を対象とした取組の充実

◆ 就学前教育研修会では、5歳児担当等が年間3回研修を受講している。研修会では事例シートを作成し、グループで事例を見合い学ぶ機会を設けている。アンケートからは5歳児の担任同士で学び合える事がとても良い時間になっているようだ。5歳児の交流活動や給食体験は、就学への期待を膨らませることにつながっている。今後も園と連携を深め、取り組みを充実させていきたい。

主要事業： ④ 関係機関との情報共有と就学前児童及び保護者への相談支援

◆ 教育相談会に保護者が自ら申込みするケースが少なく、園等に声かけを依頼しやっと相談会につながることも多い。就学に不安をもっていても教育相談会につながらないケースもある。保護者には早めに就学への意識が持てるよう教育委員会を知ってもらう必要がある。また、子どもと保護者が安心して就学を迎えられるようにしていきたい。

令和８年度（令和７年度分）玖珠町教育委員会事務の点検・評価調書

大項目（分野）	Ⅰ	学校教育	担当所属	学育・幼児教育班
中項目（方針）	２	特別支援教育の充実		

事務報告　1404.1407

１．主要事業【計画】

主要事業	① 就学支援委員会の開催と活用 ② 特別支援教育支援員の活用
前年度整理した課題	① ② 支援員の質の向上を図る

２．令和７年度に実施した取組【実行】

主要事業：　① 就学支援委員会の開催と活用
◆ 児童生徒にとって適切な学びの場を考える
主要事業：　② 特別支援教育支援員の活用
◆ 特別支援教育支援員研修の実施

３．目標指数の設定【実行】

目標指数	単位	目標値	目標値の設定根拠（数値の年度、割合等）
① 玖珠町就学支援員会の開催	回	1	令和7年度玖珠町就学支援委員会
② 特別支援教育支援員研修の実施	回	2	年度初め　長期休暇中

４．目標指標の達成度【評価】

目標指数	単位	目標値 a	実績値 b	達成率(%) b/a	達成度	自己評価	総合評価
① 玖珠町就学支援員会の開催	回	1	1	100	◎	B	B
② 特別支援教育支援員研修の実施	回	2	1	50	△		

５．現状認識及び今後の課題【改善】

主要事業：　① 就学支援委員会の開催と活用
◆ 特別支援学級に在籍する児童生徒の適切な学びの場を検討し、次年度につなげていくことができた。
主要事業：　② 特別支援教育支援員の活用
◆ 年度当初と夏季休暇中の年２回の開催を予定していたが、夏季休暇中の日程調整ができず、年間１回の開催となった。年度当初開催することは、支援員の役割や支援のあり方を再確認し、子どもの支援にあたることができる。また研修会では他校の支援員と情報交換の場にもなっているため、支援員のスキルアップにもつながっている。次年度は計画的に実施していく必要がある。

令和８年度（令和７年度分）玖珠町教育委員会事務の点検・評価調書

大項目（分野）	Ⅰ	学校教育	担当所属	学育・幼児教育班
中項目（方針）	３	知・徳・体のバランスのとれた子どもの育成		

事務報告　　1408　1409

１．主要事業【計画】

主要事業	① 各種調査結果を基にした、個別最適化された指導の推進 ② いじめ、不登校及び教育相談に関する取組の充実 ③ 日常的な体力づくりの充実
前年度整理した課題	① 小学校は目標値を達成できているが、中学校は達成できていない。 ② ③ 学校体育授業等の魅力化（質・量）と家庭や地域との連携

２．令和７年度に実施した取組【実行】

主要事業：　① 各種調査結果を基にした、個別最適化された指導の推進
◆ 確認テスト・玖珠町学力標準学力調査の実施及び分析
主要事業：　② いじめ、不登校及び教育相談に関する取組の充実
◆ SC、SSWを招聘したケース会議の実施
主要事業：　③ 日常的な体力づくりの充実
◆ SC、SSWを招聘したケース会議の実施

３．目標指数の設定【実行】

目標指数	単位	目標値	目標値の設定根拠（数値の年度、割合等）
① 確認テストにおいて、目標値を超える学年数７５%以上	%	75	全学年数　30（算数・数学は年４回実施　英語は年５回実施）
② 新規不登校児童生徒数の割合	%	4	新規不登校児童生徒数4%未満
③ 「運動が好き」の割合	%	小男90.0　小女80.0 中男90.0　中女75.0	R7体力向上アクションプラン達成指標

４．目標指標の達成度【評価】

目標指数	単位	目標値 a	実績値 b	達成率(%) b/a	達成度	自己評価	総合評価
① 確認テストにおいて、目標値を超える学年数７５%以上	%	75	65	86.7	○	B	B
② 新規不登校児童生徒数の割合	%	4	1	100	◎		
③ 「運動が好き」の割合	%	小男90.0　小女80.0 中男90.0　中女75.0	小男93.5　小女85.8 中男90.9　中女77.2	小男103.8　小女107.2 中男101　中女102.9	◎		

５．現状認識及び今後の課題【改善】

主要事業： ① 各種調査結果を基にした、個別最適化された指導の推進
◆ 小学校でつけた基礎・基本の力を中学校で伸ばせるよう確認テストや標準学力調査の実施及び課題を検証し、学力の定着に向けさらに取り組む必要がある。中学校にも提言している。
主要事業： ② いじめ、不登校及び教育相談に関する取組の充実
◆ 個別最適な学びの実現、子ども一人ひとりに対応したみとりと相談体制の充実、早期発見、早期対応など学校体制の構築に向け、今後も継続して取り組む。
主要事業： ③ 日常的な体力づくりの充実
◆ 体力づくりとして、各学校で「１校１実践」の活動を行っている。活動に対して、小学校では肯定的な意見が多く「運動がすき」の割合に表れている。中学校では、目標値を大きく下回っている。成長期にある児童生徒には、適切な運動が必要不可欠であり、学校体育授業等のさらなる魅力化（質・量）に家庭や地域と協働して取り組む必要がある。

令和８年度（令和７年度分）玖珠町教育委員会事務の点検・評価調書

大項目（分野）	Ⅰ	学校教育	担当所属	学育・幼児教育班
中項目（方針）	４	学校間・校種間のきめ細やかな連携		

事務報告

１．主要事業【計画】

主要事業	① 校種間連携組織の構築および日常的な情報共有体制の確立
前年度整理した課題	① 9年間を見通した指導体制の在り方

２．令和７年度に実施した取組【実行】

主要事業： ① 校種間連携組織の構築および日常的な情報共有体制の確立
◆ 学習指導など課題や認識の共有を図る取り組み

３．目標指数の設定【実行】

目標指数	単位	目標値	目標値の設定根拠（数値の年度、割合等）
① 小中学校教員の異校種への体験研修の実施	%	40	市町村学校組織力向上計画
① 小6合同学習・体験授業	回	3	市町村学校組織力向上計画

４．目標指標の達成度【評価】

目標指数	単位	目標値 a	実績値 b	達成率(%) b/a	達成度	自己評価	総合評価
① 小中学校教員の異校種への体験研修の参加率	%	40	52	130	◎	A	A
① 小6合同学習・体験授業	回	3	3	100	◎		

５．現状認識及び今後の課題【改善】

主要事業： ① 校種間連携組織の構築および日常的な情報共有体制の確立
◆ 小中学校教員が異校種への体験研修を実施することができた。研修は単なる見学ではなく、目的意識醸成につながっている。今後も計画的に実施し、教育内容の相互理解に努める。 小6合同学習・体験授業は計画どおり実施することができた。校種間連携は「中１ギャップ」の解消や継続した学びのためにとても重要である。今後も学びの連続性を意識し積極的に取り組む。

令和８年度（令和７年度分）玖珠町教育委員会事務の点検・評価調書

大項目（分野）	Ⅰ	学校教育	担当所属	学育・幼児教育班 総務管理班
中項目（方針）	５	ＩＣＴを活用した教育の推進		

事務報告　1420　1421

１．主要事業【計画】

主要事業	① ＩＣＴを活用した授業の充実 ② 児童生徒の情報活用能力の向上 ③ 家庭学習での通信端末の活用
前年度整理した課題	① ICTを活用するための基礎的な能力の育成 ② ジュニアICTリーダー事業の実施 ③ オンライン授業等での活用

２．令和７年度に実施した取組【実行】

主要事業：　① ＩＣＴを活用した授業の充実
◆ ICT端末を活用した深い学びを実現し、自主的な公開研の実施
主要事業：　② 児童生徒の情報活用能力の向上
◆ 生成AI研修会を教職員対象に実施し、児童生徒への還元
主要事業：　③ 家庭学習での通信端末の活用
◆ 学習アプリを導入した家庭学習

３．目標指数の設定【実行】

目標指数	単位	目標値	目標値の設定根拠（数値の年度、割合等）
① デジタル教材を利用した授業実施学校数	校	8	デジタル教材を利用した授業実施学校数
② 生成AI研修会の実施回数	回	2	ICT研修会実施回数
③ 通信端末を活用した家庭学習の実施校数	校	8	通信端末を活用した家庭学習実施学校数

４．目標指標の達成度【評価】

目標指数	単位	目標値 a	実績値 b	達成率(%) b/a	達成度	自己評価	総合評価
① デジタル教材を活用した授業実施学校数	校	8	8	100	◎	A	A
② 生成AI研修会の実施回数	回	2	2	100	◎		
③ 通信端末を活用した家庭学習の実施校数	校	8	8	100	◎		

５．現状認識及び今後の課題【改善】

主要事業：　① ＩＣＴを活用した授業の充実
◆ リーディングDX事業の指定校を中心に取り組みを行っている。ICTを活用するための基礎的な能力の育成を行い、児童生徒が自律的にICTを活用して学びあう姿を目指す。
主要事業：　② 児童生徒の情報活用能力の向上
◆ 生成AI研修会を全教職員を対象に実施している。児童生徒に還元できるよう、引き続き教員の学びを深めていくことが必要である。
主要事業：　③ 家庭学習での通信端末の活用
◆ 週末に通信端末を活用した家庭学習を課題として取り入れ、活用できている。今後も引き続き活用し、家庭学習の定着を図る。

令和８年度（令和７年度分）玖珠町教育委員会事務の点検・評価調書

大項目（分野）	Ⅰ	学校教育	担当所属	総務管理班
中項目（方針）	６	地域の高校への支援と玖珠志学塾の運営		

事務報告　1425

１．主要事業（目指すべき方向性）【計画】

主要事業	① 公営塾と学校との連携による進路の充実 ② 郡外から就学する生徒への下宿助成
前年度整理した課題	① 塾からの進学実績の向上 ② 補助金制度の効果を定期的に測定し、必要に応じて見直しも必要。

２．令和７年度に実施した取組【実行】

主要事業：　① 公営塾と学校との連携による進路の充実
◆ 玖珠美山高校生を対象とした「玖珠志学塾」を株式会社Birth47に委託し運営を行う。
主要事業：　② 郡外から就学する生徒への下宿助成
◆ 郡外から玖珠美山高へ進学しやすい環境を整えるため、町内での下宿を希望する生徒で、部活動や玖珠志学塾利用の者に助成を行う。

３．目標指数の設定【実行】

目標指数	単位	目標値	目標値の設定根拠（数値の年度、割合等）
① 塾の進学実績	人	12	国公立大学進学実績(過去3年の平均)者数
② 制度の利用者数	人	6	各学年2名
共 玖珠美山高校定員	人	114	充足率95%を目指す（定員１２０人）

４．目標指標の達成度【評価】

目標指数	単位	目標値 a	実績値 b	達成率(%) b/a	達成度	自己評価	総合評価
① 塾の進学実績	人	12	20	167	◎	B	B
② 制度の利用者数	人	6	6	100	◎		
共 玖珠美山高校定員	人	114	105	92.1	○		

５．現状認識及び今後の課題【改善】

主要事業：　① 公営塾と学校との連携による進路の充実
◆ 塾からの進学実績を上げ、学校の定員充足率向上を目指す。
主要事業：　② 郡外から就学する生徒への下宿助成
◆ 利用実績を踏まえた効果検証を行い、持続可能な運用に向けた財源のあり方や制度の見直しも必要である。

令和８年度（令和７年度分）玖珠町教育委員会事務の点検・評価調書

大項目（分野）	Ⅰ	学校教育	担当所属	給食センター
中項目（方針）	7	安全・安心な学校給食の提供と地産地消・食育の推進		

事務報告　1429・1430

１．主要事業【計画】

主要事業	① 食育授業や郷土愛を育む地産地消の推進 ② アレルギー対応食の実施
前年度整理した課題	① 地元産農作物の利用促進 ② ―

２．令和７年度に実施した取組【実行】

主要事業：　① 食育授業や郷土愛を育む地産地消の推進
◆ 地元産農作物、料理をテーマとした食育授業の開催
主要事業：　② アレルギー対応食の実施
◆ アレルギー対応食の開始

３．目標指数の設定【実行】

目標指数	単位	目標値	目標値の設定根拠（数値の年度、割合等）
① 食育授業の開催	校	2	玖珠産米、久留島流すき焼きの授業を開催
② アレルギー対応食の開始	校	8	町立小中学校・義務教育学校を対象としたアレルギー対応食の開始

４．目標指標の達成度【評価】

目標指数	単位	目標値 a	実績値 b	達成率(%) b/a	達成度	自己評価	総合評価
① 食育授業の開催	校	2	2	100	◎	A	A
② アレルギー対応食の開始	校	8	8	100	◎		

５．現状認識及び今後の課題【改善】

主要事業：　① 食育授業や郷土愛を育む地産地消の推進
◆ 食育授業の実施及び玖珠産の食材の活用を行った。今後も継続して取り組む。
主要事業：　② アレルギー対応食の実施
◆ 令和７年５月（中学校は２学期）からアレルギー対応食の提供を開始した。今後も安全性を最優先とした給食の提供を行う。

令和８年度（令和７年度分）玖珠町教育委員会事務の点検・評価調書

大項目（分野）	Ⅱ	社会教育	担当所属	社会教育班
中項目（方針）	1	地域教育力の向上		

事務報告　1511～1513

１．主要事業【計画】

主要事業	① 主催講座の開催 ② 学校との連携・協働による「地域教育力」向上事業 ③ 世代に応じた各種学習活動の支援
前年度整理した課題	① 従来にとらわれない多様な講座を計画する（社） ② 支援者数の確保（社） ③ 高齢者向けの講座は定着しているが、子ども向け、一般向けの講座の充実（社） ③ 夏休み期間中の学習ルームの充実（社）

２．令和７年度に実施した取組【実行】

主要事業：　① 主催講座の開催
◆ 主催講座を実施する。
主要事業：　② 学校との連携・協働による「地域教育力」向上事業
◆ 学校の要望を受け、適切な支援ができるよう、関係者間の調整を行う。
◆ 学校での取り組みを町報に掲載し、情報発信することで支援者の増加を図る。
主要事業：　③ 世代に応じた各種学習活動の支援
◆ 子ども向け、一般向けの講座を実施する。
◆ 年間を通じた図書室や休憩コーナーの学習環境の確保。夏休み期間中の学習ルームの充実。

３．目標指数の設定【実行】

目標指数	単位	目標値	目標値の設定根拠（数値の年度、割合等）
① 主催講座の種類（社）	種類	3	高齢者講座、こども講座、一般講座
② 支援者数（社）	延べ人数	1,103	令和６年度実績
③ こども講座、一般講座（社）	回数	5	こども講座：2回、一般向け講座：3回（令和６年度実績）
③ 学習ルーム利用者数（社）	人数	175	令和6年度実績（146人＊利用者カード確認数）の120%

４．目標指標の達成度【評価】

目標指数	単位	目標値 a	実績値 b	達成率(%) b/a	達成度	自己評価	総合評価
① 主催講座の種類（社）	種類	3	3	100	◎	A	A
② 支援者数（社）	延べ人数	1,103	1,111	100.7	◎		
③ こども講座、一般講座（社）	回数	5	6	120	◎		
③ 学習ルーム利用者数（社）	人数	175	243	138	◎		

５．現状認識及び今後の課題【改善】

主要事業： ① 主催講座の開催
◆ 講座の内容は毎年、毎回検証する必要がある。講座の一環として、玖珠町に縁のあるジャズピアニストの魚返明未さんを招いて実施したコンサートは320人の来場があり好評だった。目標指数を主催講座の数としているため数のカウントには入らないが、玖珠町歴史学級と共催した「歴史学級公開講座」は、充実した内容の取り組みができた。
主要事業： ② 学校との連携・協働による「地域教育力」向上事業
◆ 学校支援については、当初予定していたよりも支援数が少なかった。チャレンジ教室については、学校によって回数にバラつきがあるものの、安定した実施がされている。今後は学校とのより密接な連携ができるよう、連絡体制の構築と相互理解を深めたい。また、広報等を通して活動紹介をするとともに支援者の募集を行っていく。
主要事業： ③ 世代に応じた各種学習活動の支援
◆ 高齢者向けの講座は定着している。これまで座学のいわゆる講座が主であったが、最終月に体を動かす「体操講座」に取り組んだ。得手不得手ある中で、新たな取り組みは概ね好評であったため、次年度も開催を検討したい。こども講座は夏休み期間に実施したキャンプ飯作り、白磁にシールを貼って完成させるポーセラーツ制作などは普段体験できない取組みを実施した。高齢者学級は、町内4地区の自治会館を会場に取り組んだ。夏休み期間中の平日に２階視聴覚室を「学習ルーム」として開放した。Wi-fiを使える環境であることが広まったせいか、昨年の146人から243人の利用へ増加した。更なる周知を広げていきたい。夏休み期間以外も休憩コーナーや図書室を学習の場として定着させていきたい。

令和８年度（令和７年度分）玖珠町教育委員会事務の点検・評価調書

大項目（分野）	Ⅱ	社会教育	担当所属	社会教育班
中項目（方針）	2	子どもと大人　家庭と地域での教育		
			事務報告	1504

１．主要事業【計画】

主要事業	① 青少年健全育成協議会への支援 ② 家庭教育に関する事業の実施
前年度整理した課題	① 「育成協だより」の発行 ② 家庭教育講演会の内容、実施方法の工夫

２．令和７年度に実施した取組【実行】

主要事業：　① 青少年健全育成協議会への支援
◆ 町青少年健全育成大会の実施
◆ ７地区の健全育成協議会への支援
◆ 家庭教育講演会の実施
主要事業：　② 家庭教育に関する事業の実施
◆ 各学校、PTA等との情報共有を行い、ニーズに沿った家庭教育講演会を実施する。

３．目標指数の設定【実行】

目標指数	単位	目標値	目標値の設定根拠（数値の年度、割合等）
① 町青少年健全育成推進大会参加者	名	209	令和6年度実績
① 「育成協だより」の発行数	回	2	各地区の特徴的な取組お知らせ回、大会報告回
② 家庭教育講演会参加者	名	65	令和6年度実績

４．目標指標の達成度【評価】

目標指数	単位	目標値 a	実績値 b	達成率(%) b/a	達成度	自己評価	総合評価
① 町青少年健全育成推進大会参加者	名	209	230	110.0	◎	C	C
① 「育成協だより」の発行数	回	2	1	50.0	×		
② 家庭教育講演会参加者	名	65	58	89.2	○		

５．現状認識及び今後の課題【改善】

主要事業：　① 青少年健全育成協議会への支援
◆ 青少年健全育成推進大会の来場者数は、昨年を超える人数となったものの、児童生徒の発表が終了すると席を立つ来場者がいた。町内小中高校の児童生徒の発表の場として定着したが、課題がある。育成協だよりの発行については、1回のみとなった。各地区育成協役員会議では、昨年度に引き続き活発な意見交換が行われており、自主的な活動につながるよう支援していきたい。
主要事業：　② 家庭教育に関する事業の実施
◆ 家庭教育講演会は1回の実施となった。会場内での参加者の反応は非常によかったが、目標としていた参加人数には少し届かなかった。周知方法など工夫したい。

令和８年度（令和７年度分）玖珠町教育委員会事務の点検・評価調書

大項目（分野）	Ⅱ	社会教育	担当所属	社会スポーツ班
中項目（方針）	３	生涯にわたるスポーツ・レクリエーションの推進		

事務報告　1519・1524
1525・1526

１．主要事業【計画】

主要事業	① スポーツ団体、サークル活動の充実 ② 住民参加型のスポーツイベントの実施
前年度整理した課題	① スポーツ団体、サークル活動団体数の維持 ② 誰でも参加しやすいスポーツイベントの開催

２．令和７年度に実施した取組【実行】

主要事業：　① スポーツ団体、サークル活動の充実
◆ スポーツ団体、サークル活動に対する情報発信の充実
主要事業：　② 住民参加型のスポーツイベントの実施
◆ リレーマラソン、すこやかスポーツ祭、町民スポーツ大会、軽スポーツ大会

３．目標指数の設定【実行】

目標指数	単位	目標値	目標値の設定根拠（数値の年度、割合等）
① 魅力ある団体活動の充実	団	7	少年団６+総合型地域スポーツクラブ１
② 参加しやすいイベントの開催	人	850	リレーマラソン、すこやかスポーツ祭、町民スポーツ大会、軽スポーツ大会

４．目標指標の達成度【評価】

目標指数	単位	目標値 a	実績値 b	達成率(%) b/a	達成度	自己評価	総合評価
① 魅力ある団体活動の充実	団	7	7	100	◎	B	B
② 参加しやすいイベントの開催	人	850	800	94	○		

５．現状認識及び今後の課題【改善】

主要事業：　① スポーツ団体、サークル活動の充実
◆ スポーツ少年団においては、団員数は昨年とほぼ変わらず、団数に関しても維持できている。 総合型スポーツクラブにおいては、昨年より教室の増減はあったものの、教室数に関しては維持できており、今後も充実した活動の場を提供できるクラブを持続する。
主要事業：　② 住民参加型のスポーツイベントの実施
◆ 今年度は昨年に引き続き、軽スポーツ大会としてモルック大会を行なった。町外からの参加もあり好評で、今後も継続して開催する。

令和８年度（令和７年度分）玖珠町教育委員会事務の点検・評価調書

大項目（分野）	Ⅱ	社会教育	担当所属	社会教育班 わらべの館 久留島武彦記念館
中項目（方針）	４	久留島武彦精神を継承する取組の充実		

事務報告　社1504・社1505
わ1602・わ1604
久1705

１．主要事業【計画】

主要事業	① 日本童話祭の開催（社） ② 久留島武彦顕彰全国語りべ大会の開催（社） ③ 久留島武彦顕彰全国児童生徒俳句大会の開催（わ） ④ 久留島武彦童話賞子ども創作童話コンクールの開催（久） ⑤ 小中学校をはじめとする久留島学習の場の提供（久） ⑥ 久留島武彦記念館による調査・資料収集・研究・企画展示・情報発信（久） ⑦ わらべサークル協議会への支援及び児童文化の担い手の育成（わ）
前年度整理した課題	① 見直し可能な行事の検討（社） ② 大会開催方法、学校との連携（社） ③ 投句の質の向上（わ） ④ 学校との連携（久） ⑤ 副読本の活用（久） ⑥ 館長の講演会開催、メディア掲載による情報発信（久） ⑦ わらべサークル協議会への支援及び児童文化の担い手の育成（わ）

２．令和７年度に実施した取組【実行】

主要事業：　① 日本童話祭の開催（社）
◆ 式典の開催内容の検討、パレード参加者増の手法検討
主要事業：　② 久留島武彦顕彰全国語りべ大会の開催（社）
◆ 開催時期の検討、町内小学校との連携
主要事業：　③ 久留島武彦顕彰全国児童生徒俳句大会の開催（わ）
◆ 俳句出前授業の開催
主要事業：　④ 久留島武彦童話賞子ども創作童話コンクールの開催（久）
◆ 町内の小・中・高等学校を１校ずつまわり作品の応募を呼びかける。
主要事業：　⑤ 小中学校をはじめとする久留島学習の場の提供（久）
◆ 久留島武彦副読本を町内新４年生及び玖珠町へ転入してきた教員へ配布する。 また、学習の場として久留島武彦記念館を訪れるよう促す。
主要事業：　⑥ 久留島武彦記念館による調査・資料収集・研究・企画展示・情報発信（久）
◆ 企画展やイベント時にメディアに積極的に情報発信を行い、記念館の魅力を伝える。
主要事業：　⑦ わらべサークル協議会への支援及び児童文化の担い手の育成（わ）
◆ わらべサークル協議会と共催で行事を企画運営する

３．目標指数の設定【実行】

目標指数	単位	目標値	目標値の設定根拠（数値の年度、割合等）
① 童話祭式参加者数（社）	名	500	令和6年度童話祭式参加者数
② 語りべ大会町内応募者数（社）	名	8	各学校から１名
② 語りべ大会来場者数（社）	名	247	各種団体からの参加見込み
③ 俳句出前授業の開催（わ）	回	1	未実施校
④ 創作童話コンクール応募作品数（久）	作	158	過去３年の平均応募作品数
⑤ 久留島武彦記念館来館数（久）	校	6	町内の小学校数
⑥ メディア掲載数（久）	回	84	過去３年の平均メディア掲載数
⑦ 共催行事の企画運営（わ）	回	2	主要行事：２（こどもフェス・新春こどもまつり）

４．目標指標の達成度【評価】

目標指数	単位	目標値 a	実績値 b	達成率(%) b/a	達成度	自己評価	総合評価
① 童話祭式参加者数（社）	名	500	500	100.0	◎	社B わA 久A	A
② 語りべ大会町内応募者数（社）	名	8	23	287.5	◎		
② 語りべ大会来場者数（社）	名	247	100	40.5	×		
③ 俳句出前授業の開催（わ）	回	1	1	100	◎		
④ 創作童話コンクール応募作品数（久）	作	158	181	114.6	◎		
⑤ 久留島武彦記念館来館数（久）	校	6	3	50.0	△		
⑥ メディア掲載数（久）	回	84	96	114.3	◎		
⑦ 共催行事の企画運営（わ）	回	2	2	100	◎		

５．現状認識及び今後の課題【改善】

主要事業： ① 日本童話祭の開催（社）
◆ パレード参加団体が減少したものの、童話祭式の参加人数は大きく変動しなかった。式典については、日本童話祭、久留島武彦について学びを深める機会として捉えたいが、うまく活用できていない現状にある。
主要事業： ② 久留島武彦顕彰全国語りべ大会の開催（社）
◆ 12月開催としたことで、町内小学校の協力のもと目標以上の町内応募者となった。児童生徒が参加しやすい夏休み期間中の開催を希望する声はあるものの、町内応募者の確保には秋以降の開催が望ましいと考える。当日の来場者については、実行委員会で各団体にお願いした予定人数を大幅に下回った。実行委員の意識改革は必要だが、大会日程が決まり次第速やかに連絡するなど、事務局としての工夫も必要。
主要事業： ③ 久留島武彦顕彰全国児童生徒俳句大会の開催（わ）
◆ 北山田小学校を対象に俳句出前授業を開催した。俳句の基本を学び、指導者と共に吟行することで、俳句づくりの楽しさを味わえる授業となった。さらなる俳句文化の向上を目指す。
主要事業： ④ 久留島武彦童話賞子ども創作童話コンクールの開催（久）
◆ 前回より大幅に応募が増加した。要因は、応募サイトに掲載に加え、学校単位で取り組んでくれる学校が増えたことが挙げられる。町内の中学校、高校も増加したが、担当する教員によって応募数が増減する傾向にある。町内小学校の応募は少ない。第１０回終了時点で効果を検証し事業継続の有無を判断する。

主要事業： ⑤ 小中学校をはじめとする久留島学習の場の提供（久）
◆ 副読本を活用した学習により久留島武彦に対する知識の定着を図れた。達成率は５０％（小学校来館数）であるが、来館できなくても、記念館のパンフレットをつくるワークショップに取り組む学校もあった。また、本年は町内こども園からの見学が増加した。 知識としての定着が浸透してきているため、今後は久留島武彦が持っていた教育観を現代の教育の中に取り入れられるか。そして、その教育が童話の里の教育として特徴あるものとして浸透させたい。 令和７年度は、久留島の桃太郎教育を体験するからだと音のワークショップを開催。今後は町内の子ども園等に久留島の桃太郎教育に基づいた「からだ・心のプログラム」を提供できるよう、調査研究をおこなう。
主要事業： ⑥ 久留島武彦記念館による調査・資料収集・研究・企画展示・情報発信（久）
◆ これまでの久留島武彦記念館の活動により、調査・資料収集・研究・企画展示・情報発信は順調に継続できている。その結果、町内の子ども園から高校まで、知識としての久留島武彦は定着していると考える。今後は、知識としての久留島武彦だけでなく、久留島武彦の教育観（桃太郎教育）をどのように伝え、実践していくかが課題となる。
主要事業： ⑦ わらべサークル協議会への支援及び児童文化の担い手の育成（わ）
◆ サークル協議会主催行事とプロの公演を組み合わせ、多くの集客につなげた。引き続き「久留島武彦精神」を継承し、わらべサークル協議会への支援とより魅力的な人材育成の取り組みを通して、児童文化の担い手を発掘・支援・育成していく必要がある。

令和８年度（令和７年度分）玖珠町教育委員会事務の点検・評価調書

大項目（分野）	Ⅱ	社会教育	担当所属	社会教育班 久留島武彦記念館
中項目（方針）	５	文化の創造と振興		

事務報告　社(1505・1513)
久1702～1705

１．主要事業【計画】

主要事業	① 巡回音楽会の開催（社） ② 文化芸術活動を促進するための公民館フェスティバルの開催（社） ③ 久留島武彦記念館による企画展の開催（久） ④ 文化芸術に触れる機会の提供（社）（久） ⑤ 自主文化芸術活動への支援（社）
前年度整理した課題	① 子どもたちに一流の芸術文化を鑑賞する機会を継続して実施する。（社） ② くすまち文化祭との合同開催（社） ③ 魅力ある企画展を開催し、来館者の増加を目指す。（久） ④ くすまち文化祭との連携。作品展示期間や回数の整理。（社） ⑤ くすまち文化祭（玖珠町文化振興会主催）への支援を継続する。（社）

２．令和７年度に実施した取組【実行】

主要事業：　① 巡回音楽会の開催（社）
◆ 児童生徒に一流の芸術文化に触れる場を提供する。
主要事業：　② 文化芸術活動を促進するための公民館フェスティバルの開催（社）
◆ くすまち文化祭との合同開催。
主要事業：　③ 久留島武彦記念館による企画展の開催（久）
◆ 魅力ある企画展を５回開催し、入館者数の増加を目指す。
主要事業：　④ 文化芸術に触れる機会の提供（社）（久）
◆ くすまち文化祭との連携。作品展示期間や回数の整理（社）
◆ 魅力ある企画展を５回開催し、入館者数の増加を目指す。（久）
主要事業：　⑤ 自主文化芸術活動への支援（社）
◆ 中央公民館とともに、町民の芸術活動・自主文化活動の発表の場を提供する。

３．目標指数の設定【実行】

目標指数	単位	目標値	目標値の設定根拠（数値の年度、割合等）
① 巡回音楽会公演数（社）	回	9	5日間で9回公演
② 舞台部門の合同開催（社）	回	1	前年度まで別日に行こなっていた舞台部門を統一し合同開催へ
③ 企画展開催数（久）	回	5	令和6年度開催予定数
④ 入館者数（久）	人	5592	過去３年間間の平均入館者数（R4-6）
④ 作品展示の回数（社）	回	2	旧公民館フェスティバル、旧くすまち文化祭の2回
⑤ 展示会の実施（社）	回	2	令和6年度実績

４．目標指標の達成度【評価】

目標指数	単位	目標値 a	実績値 b	達成率(%) b/a	達成度	自己評価	総合評価
① 巡回音楽会公演数（社）	回	9	9	100.0	◎	社A 久A	A
② 舞台部門の合同開催	回	1	1	100.0	◎		
③ 企画展開催数（久）	回	5	5	100	◎		
④ 入館者数（久）	人	5592	6392	114.3	◎		
④ 作品展示の回数（社）	回	2	3	150.0	◎		
⑤ 展示会の実施（社）	回	2	2	100.0	◎		

５．現状認識及び今後の課題【改善】

主要事業： ① 巡回音楽会の開催（社）
◆ 今年度は従来どおり各学校での開催となった。中学校のみメルサンホールでの開催だったが、移動などで学校での開催より時間を要するため、中学校での開催検討が必要。今後も子どもたちが一流の芸術文化に触れる場を創出するため、継続して実施していきたい。
主要事業： ② 文化芸術活動を促進するための公民館フェスティバルの開催（社）
◆ 芸能活動を行っている人の高齢化、メンバーの減少など存続していくことが難しい団体が出始めている。別日に行っていた「くすまち文化祭」「公民館フェスティバル舞台部門」の発表を同日開催することで、出演者同士の刺激となり、新たな人の繋がりになった。公民館フェスティバル展示部門は昨年同様２月に開催し、一昨年の課題改善のため、展示期間を短く、かつ、全ての展示を２階ホワイエで行った。ホールイベントの合間や確定申告の合間を利用して多くの町民に観覧してもらうことができた。
主要事業： ③ 久留島武彦記念館による企画展の開催（久）
◆ ５回の企画展に加え、館内のミニ展示４回、出張展示２回開催した。特に第３７回企画展は好評で、期間中に２０００人を超える来場者があった。 今後も魅力ある企画展が開催できるよう調査研究を継続する。
主要事業： ④ 文化芸術に触れる機会の提供（社）（久）
◆ 創作活動を行う町民の発表の場として、昨年に引き続き「くすまち文化祭」「公民館フェスティバル」で作品を募集し、発表の場を提供した。 また、個人申込みの写真展を実施した。今後も作品発表の場として会場を提供していく。（社）
◆ 町民が文化芸術に触れる機会を企画展やleくる（韓国語講座）として提供できた。入館者数の1/6が町内の有料入館者数。（久）
主要事業： ⑤ 自主文化芸術活動への支援（社）
◆ 公民館フェスティバル展示部門と連携し、実施できた。また、文化振興会主催「くすまち文化祭」に共催し、バックアップを継続することができた。

令和８年度（令和７年度分）玖珠町教育委員会事務の点検・評価調書

大項目（分野）	Ⅱ	社会教育	担当所属	社会教育班
中項目（方針）	６	地域にある文化財の保存と活用の推進		

事務報告　　1507～1511

１．主要事業【計画】

主要事業	① 文化財保護（保存・活用）の推進 ② 国指定文化財の保存整備 ③ 各小中学校の郷土教育の支援
前年度整理した課題	① 伐株山城跡現地説明会の実施 ② 角牟礼城跡の本丸跡北側石垣の解体工事 ③ 旧久留島氏庭園の整備の計画、清水御茶屋の調査

２．令和７年度に実施した取組【実行】

主要事業：　① 文化財保護（保存・活用）の推進
◆ 伐株山城跡の町指定文化財に向けた検討、無形民俗文化財の記録・保存
主要事業：　② 国指定文化財の保存整備
◆ 角牟礼城跡本丸北側石垣の解体修復工事及び旧久留島氏庭園環境整備事業の実施
主要事業：　③ 各小中学校の郷土教育の支援
◆ 文化財に直接触れることができる体験メニューの実施

３．目標指数の設定【実行】

目標指数	単位	目標値	目標値の設定根拠（数値の年度、割合等）
① 指定文化財の検討	%	100	文化財保護審議委員会での検討及び地元説明の実施
① 無形民俗文化財の記録・保存	団体	1	町指定無形民俗文化財の記録・保存
② 石垣工事	%	100	工事の進捗
③ 郷土教育の支援	回	3	出張講座の開催回数（令和６年度実績）

４．目標指標の達成度【評価】

目標指数	単位	目標値 a	実績値 b	達成率(%) b/a	達成度	自己評価	総合評価
① 指定文化財の検討	%	100	0	0.0	×	B	B
① 無形民俗文化財の記録・保存	団体	1	1	100.0	◎		
② 石垣工事	%	100	100	100.0	◎		
③ 郷土教育の支援	回	3	3	100.0	◎		

５．現状認識及び今後の課題【改善】

主要事業：　① 文化財保護（保存・活用）の推進
◆ 伐り株山城跡の文化財指定については、具体的な方針を検討するには至らなかった。きじ車について記録資料（映像）を作成し、文化財保護審議会で視聴することができた。また、昨年度から課題だった清水御門前石組水路の調査と陥没箇所の修繕を実施した。
主要事業：　② 国指定文化財の保存整備
◆ 角牟礼城跡本丸北側解体工事4期目が終了した。引き続き、解体、修復に向けて取り組んでいく。また、旧久留島氏庭園整備基本計画に基づき、清水御門周辺植栽整備を実施した。
主要事業：　③ 各小中学校の郷土教育の支援
◆ 町内小中学校に出向き、郷土の歴史や文化財について授業を行った。今後もふるさとの自然や歴史、文化を大切にすることで郷土愛が育まれるよう、継続して実施していく。

令和８年度（令和７年度分）玖珠町教育委員会事務の点検・評価調書

大項目（分野）	Ⅱ	社会教育	担当所属	社会教育班 わらべの館
中項目（方針）	7	生涯学習を保障する図書館サービス網の充実		
			事務報告	社(1514・1515) わ1606

１．主要事業【計画】

主要事業	① わらべの館の図書の充実（わ） ② 中央公民館図書室の充実と利用者の拡大（社） ③ わらべの館児童図書室と中央公民館図書室の連携（社）（わ） ④ わらべの館移動図書館車の活用（わ）
前年度整理した課題	① 読書ニーズの積極的な対応（わ） ② 企画コーナーの設置（社） ③ 双方の利便性を生かした図書サービス（わ） ④ 読書ニーズの積極的な対応（わ）

２．令和７年度に実施した取組【実行】

主要事業： ① わらべの館の図書の充実（わ）
◆ 社会の流れや利用者ニーズに沿ったテーマ展示を行い、本の魅力を引き出す。
主要事業： ② 中央公民館図書室の充実と利用者の拡大（社）
◆ 企画コーナーの設置を行い、施設利用者の図書への関心を高め、貸出冊数増に努める。
主要事業： ③ わらべの館児童図書室と中央公民館図書室の連携（社）（わ）
◆ 相互の図書サービスの連携を図る（わ）
主要事業： ④ わらべの館移動図書館車の活用（わ）
◆ 移動図書館車の周知
◆ 周辺部を中心に新規ステーションの増

３．目標指数の設定【実行】

目標指数	単位	目標値	目標値の設定根拠（数値の年度、割合等）
① テーマ展示（わ）	回	24	月２回のテーマ展示
② 貸出冊数（社）	冊	2,529	令和5・6年度実績（過去最高数：2期連続）
③ 相互協力に向けた協議（わ）	式	1	中央公民館図書室との連携協議
④ 移動図書館車の周知（わ）	回	2	広報掲載数
④ 新規ステーションの増（わ）	箇所	1	現状数値と状況

４．目標指標の達成度【評価】

目標指数	単位	目標値 a	実績値 b	達成率(%) b/a	達成度	自己評価	総合評価
① テーマ展示（わ）	回	24	30	125	◎	社A わB	A
② 貸出冊数（社）	冊	2,529	2,532	100	◎		
③ 相互協力に向けた協議（わ）	式	1	1	100	◎		
④ 移動図書館車の周知（わ）	回	2	3	150	◎		
④ 新規ステーションの増（わ）	箇所	1	0	0	×		

５．現状認識及び今後の課題【改善】

主要事業： ① わらべの館の図書の充実（わ）
◆ 県内図書館と連携した「インパクトタイトル王選手権」など様々な角度からテーマ展示を行い、本の魅力を広くアピールした。今後も、本の魅力を伝えるとともに、県立図書館や県内図書館との相互協力を図り、利用者ニーズに積極的にこたえていく。
主要事業： ② 中央公民館図書室の充実と利用者の拡大（社）
◆ 季節のイベントなどに合わせて、企画コーナーを設置し、図書室に親しみやすい環境を作った。貸出冊数に直結すことはないかもしれないが、引き続き企画コーナーを行っていくことで図書に関心を持ってもらう。貸出冊数は、微増ながら過去最高数を更新した。
主要事業： ③ わらべの館児童図書室と中央公民館図書室の連携（社）（わ）
◆ それぞれの特性を活かした利用しやすい図書室づくりをさらに連携して進める。
主要事業： ④ わらべの館移動図書館車の活用（わ）
◆ 老人福祉施設や学校、こども園、放課後児童クラブなどの施設を中心に26のステーションを巡回。広報にて新規ステーションの募集をおこなった。今後も移動図書館車の活用と読書ニーズの掘り起こしをしていきたい。

令和８年度（令和７年度分）玖珠町教育委員会事務の点検・評価調書

大項目（分野）	Ⅲ	学校教育・社会教育の連携	担当所属	学育・幼児教育班
中項目（方針）	1	地域とともにある学校づくり（コミュニティ・スクールの推進）		

事務報告

１．主要事業【計画】

主要事業	① 積極的な情報発信 ② 地域の「ひと・もの・こと」を活用した教育活動の推進 ③ 地域学校協働活動（協育コーディネーター）との連携
前年度整理した課題	① ② ③

２．令和７年度に実施した取組【実行】

主要事業： ① 積極的な情報発信
◆ 学校ホームページの活用と町報への情報提供
主要事業： ② 地域の「ひと・もの・こと」を活用した教育活動の推進
◆ 地域人材によるゲストティーチャー授業の実施
主要事業： ③ 地域学校協働活動（協育コーディネーター）との連携
◆ 学校運営協議会への地域学校協働活動推進員の参画

３．目標指数の設定【実行】

目標指数	単位	目標値	目標値の設定根拠（数値の年度、割合等）
① ホームページの更新	校	8	学校ごとに月１回以上の更新
② ゲストティーチャーによる授業	校	8	全学校
③ 地域学校協働活動推進員の参画学校数	校	8	全学校

４．目標指標の達成度【評価】

目標指数	単位	目標値 a	実績値 b	達成率(%) b/a	達成度	自己評価	総合評価
① ホームページの更新	校	8	8	100	◎	A	A
② ゲストティーチャーによる授業	校	8	8	100	◎		
③ 地域学校協働活動推進員の参画学校数	校	8	8	100	◎		

５．現状認識及び今後の課題【改善】

主要事業：　① 積極的な情報発信
◆ 学校ごとにホームページを更新し、学校だより等を活用しながら積極的に情報発信している。今後も継続して取り組みを推進していく。
主要事業：　② 地域の「ひと・もの・こと」を活用した教育活動の推進
◆ 地域のゲストティーチャーによる授業や学校行事への支援により、地域とともにある学校づくりを推進することができている。今後も継続して進めていく。
主要事業：　③ 地域学校協働活動（協育コーディネーター）との連携
◆ 各学校で、地域学校協働活動推進員が学校運営協議会委員として参画している。地域学校協働活動推進員は、学校行事や授業の補助などに支援ボランティアを活用するため、地域の方々と学校をつないでいる。今後も地域とともにある学校づくりを推進していく。

令和８年度（令和７年度分）玖珠町教育委員会事務の点検・評価調書

大項目（分野）	Ⅲ	学校教育・社会教育の連携	担当所属	学育・幼児教育班 社会スポーツ班
中項目（方針）	２	中学校部活動の地域展開		

事務報告

１．主要事業【計画】

主要事業	① 中学校部活動（運動部・文化部）の地域展開（学）（ス）
前年度整理した課題	①

２．令和７年度に実施した取組【実行】

主要事業： ① 中学校部活動（運動部・文化部）の地域展開（学）（ス）
◆ 部活動顧問及び競技団体との協議の実施

３．目標指数の設定【実行】

目標指数	単位	目標値	目標値の設定根拠（数値の年度、割合等）
① 部活動顧問及び競技団体との協議	回	22	部活動と競技団体の数

４．目標指標の達成度【評価】

目標指数	単位	目標値 a	実績値 b	達成率(%) b/a	達成度	自己評価	総合評価
① 部活動顧問及び競技団体との協議	回	22	21	95	○	B	B

５．現状認識及び今後の課題【改善】

主要事業： ① 中学校部活動（運動部・文化部）の地域展開（学）（ス）
◆ 休日の部活動地域展開は令和８年８月から実施予定としており、引き続き学校及び競技団体と協議を継続する。

令和８年度（令和７年度分）玖珠町教育委員会事務の点検・評価調書

大項目（分野）	Ⅳ	人権教育	担当所属	学育・幼児教育班
中項目（方針）	1	学校教育における人権教育の充実		

事務報告　　1409　1410

１．主要事業【計画】

主要事業	① 児童生徒への部落差別解消に向けた人権教育の指導及び啓発活動の推進 ② 部落差別解消に向けた教職員研修の実施
前年度整理した課題	① 年間指導計画に基づいた取組の実施 ② 継続した取組の実施

２．令和７年度に実施した取組【実行】

主要事業：　① 児童生徒への部落差別解消に向けた人権教育の指導及び啓発活動の推進
◆ 人権教育に係る年間指導計画の作成及び実施
主要事業：　② 部落差別解消に向けた教職員研修の実施
◆ 人権・部落差別解消推進指導員の活用

３．目標指数の設定【実行】

目標指数	単位	目標値	目標値の設定根拠（数値の年度、割合等）
① 人権教育に係る年間指導計画の作成	校	8	全校実施
② 人権・部落差別解消推進指導員による教職員研修の実施	校	8	全校実施

４．目標指標の達成度【評価】

目標指数	単位	目標値 a	実績値 b	達成率(%) b/a	達成度	自己評価	総合評価
① 人権教育に係る年間指導計画の作成	校	8	8	100	◎	B	A
② 人権・部落差別解消推進指導員による教職員研修の実施	校	8	8	100	◎		

５．現状認識及び今後の課題【改善】

主要事業：　① 児童生徒への部落差別解消に向けた人権教育の指導及び啓発活動の推進
◆ 各学校において、年間指導計画を作成し、計画的に取り組むことができた。 誰もが尊重される社会となるよう、今後も継続して取り組みを進めていく。
主要事業：　② 部落差別解消に向けた教職員研修の実施
◆ 各学校に人権・部落差別解消推進指導員を派遣し、教職員研修を実施した。また、校長会の中でも人権ワンポイント講座や職員提案等を取り入れ研修を深めている。今後も継続して研修を実施する。

令和８年度（令和７年度分）玖珠町教育委員会事務の点検・評価調書

大項目（分野）	Ⅳ	人権教育	担当所属	社会教育班
中項目（方針）	２	あらゆる場における人権教育の推進		

事務報告　1506

１．主要事業【計画】

主要事業	① 玖珠町人権公開講座の開催 ② 広報くす「あなたの人権・わたしの人権」の掲載 ③ 部落差別の解消の推進に関する法律の目的に沿った事業実施
前年度整理した課題	① ＰＴＡ、教員、町職員の研修として参加者の確保 ② 小中学校の協力により継続していく。 ③ 人権啓発チラシの配布

２．令和７年度に実施した取組【実行】

主要事業：　① 玖珠町人権公開講座の開催
◆ 講師と十分な打ち合わせを行いわかりやすい内容とすることで、参加者の満足度を上げる。
主要事業：　② 広報くす「あなたの人権・わたしの人権」の掲載
◆ 年12回掲載
主要事業：　③ 部落差別の解消の推進に関する法律の目的に沿った事業実施
◆ 人権啓発チラシの配布

３．目標指数の設定【実行】

目標指数	単位	目標値	目標値の設定根拠（数値の年度、割合等）
① 受講者数の確保	名	334	令和6年度受講者数
① 受講者の理解度	%	94.1	令和6年度アンケートの「分かりやすい」、「まあまあ分かりやすい」の合計パーセンテージ
② 人権作文の「広報くす」掲載	回	12	12回（令和6年度）毎月掲載
③ 人権啓発チラシの配布	回	3	青少年健全育成大会、語りべ大会、家庭教育講演会

４．目標指標の達成度【評価】

目標指数	単位	目標値 a	実績値 b	達成率(%) b/a	達成度	自己評価	総合評価
① 受講者数の確保	名	334	296	88.6	○	A	A
① 受講者の理解度	%	94.1	94.1	100.0	◎		
② 人権作文の「広報くす」掲載	回	12	12	100.0	◎		
③ 人権啓発チラシの配布	回	3	3	100.0	◎		

５．現状認識及び今後の課題【改善】

主要事業：　① 玖珠町人権公開講座の開催
◆ 魅力ある、参加してみたいと思う講座内容の工夫（講師選定）が大切。講師とは事前に打ち合わせを行い、学習内容や学習形態を確認し、また受講者のおおまかな年齢層などを伝えることで、人権公開講座に合致した内容となっている。令和6年度から「年間テーマ」を設定し、講座の冒頭でテーマを確認することで、受講者が目的を認識し、年間で学ぶことの意義が伝わったと考える。 なお、令和7年度は6回の講座中1回が台風で中止となったため、実績値は5回分の受講者数である。
主要事業：　② 広報くす「あなたの人権・わたしの人権」の掲載
◆ 町内小中学校、義務教育学校および高校、また社会人（人権公開講座受講者）から作文の提出を受け、広報くすに毎月掲載することができた。様々な視点で人権課題を考える機会と捉え、今後も継続していく。
主要事業：　③ 部落差別の解消の推進に関する法律の目的に沿った事業実施
◆ 人権確立・部落差別解消推進課と協力し、「あなたは人権3法をご存じですか？」のチラシを中心に参加者への配布を行った。また、人権公開講座や人権を守るつどい、考えるつどいのチラシも配布し、相互に周知することができた。